

# 所報

No.139  
令和5年2月15日

富山県総合教育センター

富山市高田525

E-mail:center@tym.ed.jp(代表)  
URL:http://center.tym.ed.jp/

## 目 次

- 巻頭言 ..... 1
- 各部研修の一コマ ..... 1
- 調査研究事業の概要 ..... 2
- センター事業より ..... 3・4
- 随想 ..... 5
- 連載「知って得04」 ..... 6

## 巻頭言

## 高い壁を乗り越える —富山県高等学校生徒海外派遣事業での学び—

副所長 横田 淳一

おかげさまで富山県総合教育センターは40周年を迎えました。また、未来を担うグローバル人材の育成を目指し県教委が行っている高等学校生徒海外派遣事業も、今年度で40回目を迎えました。当センターも、初回からこの事業に関わっています。平成24年の所報に塚本副所長(当時)が『はばたけ富山の高校生—高校生海外派遣事業への期待—』と題し「初期の派遣先は欧州であったが、同時多発テロの影響で中国に変更され、新型感染症の流行で米国になり、第8回は湾岸戦争の勃発のために中止された。国際環境の変化が身をもって実感される」と記しています。ここ数年間も、令和元年度の第37回は事前研修を修了し出発という時に新型コロナウイルス感染症拡大のため急遽中止、第38・39回は生徒募集からできませんでした。

今年度の第40回は、推進協議会等での慎重な検討を経て米国オレゴン州・カリフォルニア州へ3月6日～17日に高校生20名が派遣されます。感染症・ウクライナ紛争・インフレと円安など多くの課題に加え、7年ぶりのアメリカ訪問のため、以前の繋がりを掘り起こし、書き尽せない程多数の方々の力をお借りしながら準備を進めています。

事前研修中、呉羽青少年自然の家で生徒と寝食を共にしながら、考えたことがあります。「生徒たちが一番よく学ぶのはどんな時だろうか?派遣中困らないよう完璧にお膳立てして無事帰ってこれられても、必然性を感じる主体

的な学びにならないのではないだろうか。むしろ、本当に困った時こそ切実に学び、成長するのではないだろうか。」

生徒たちが応募書類に書いた希望や事前学習からずっと取り組んでいる研修テーマなど、ぜひともやりたいことを、自分たちの力で進めるような機会であってこそ、主体的・協働的な学びになるのではないのでしょうか。そして、その中の困難な場面を通してこそ、学びは深まり、たくましさも鍛えられるはず。特に外国で壁を乗り越える経験は、国際的な場において、自分たちが望むことをどのようにすれば実現できるかについて、実際に学ぶこととなります。

どのような壁に出会い乗り越えることになるのか、そのことをしっかり見通しつつ、生徒のやりたいということ大切に研修になるよう、力を尽くしたいと思っています。

(第40回高等学校生徒海外派遣団团长)



訪問校での交流会に向けての練習



「ふるさと富山」を英語で紹介

## 各部研修の一コマ

### 教育研修部



初任者研修会(小学校)  
「学び合いを取り入れた授業展開」協議

### 科学情報部



初任者研修会(高等学校)  
「授業におけるICT活用」模擬授業

### 教育相談部



不登校児童生徒に対する支援研修会  
「寄り添い方いろいろ」講演

# 令和4年度 調査研究事業の概要

## 教育研修部

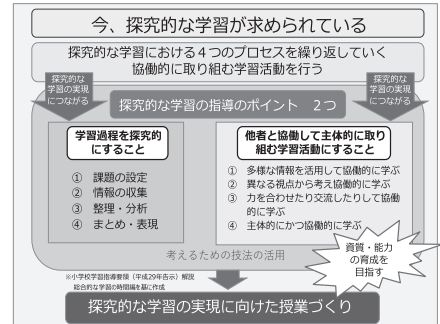
### 探究的な学習の実現に向けた授業づくりに関する調査研究(1年次)

— 小・中学校における「総合的な学習の時間」を通して —

近年、少子高齢化や人口減少の進行、AI等の技術革新やグローバル化の進展が急速に進んでおり、社会の変化が加速度を増しています。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大等、まさに予測困難な時代となっています。

こうした時代だからこそ、探究的な学習に取り組み、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしていくことができる資質・能力を育成することはとても重要なことだといえます。

教育研修部では、「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究的な学習の過程に沿って学習活動を繰り返していくこと」「協働的に取り組む学習活動を行うこと」を調査研究の視点とし、子供たちの学習の質を高め、探究的な学習の実現に向けた授業づくりについて明らかにすることを目的として、今年度、次の4つの研究に取り組みました。



探究的な学習の実現に向けた授業づくりを目指して

- 研究1 「探究的な学習における児童の豊かな学習の姿」の具現化
- 研究2 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究的な学習の過程に沿った授業の実施
- 研究3 「探究的な学習確認シート」の作成
- 研究4 「単元デザインシート」の作成

この調査研究を通して、現場の先生方の日々の授業に寄り添い、子供たちの資質・能力を育む授業づくりにつながるよう努めてきました。今年度の成果や課題について報告します。

## 科学情報部

### 授業におけるICTの活用に関する調査研究(1年次)

— 1人1台端末環境を通して —

富山県ではGIGAスクール構想により小・中・義務教育学校・高等学校・特別支援学校すべてにおいて、1人1台端末が整備されました。これからは、児童・生徒の学習に対する興味・関心を高め、情報活用能力を含む様々な資質・能力の育成を図るために、1人1台端末を含むICTを効果的に活用した学習活動の充実が求められます。

本調査研究では、「教育の情報化に関する手引」(文部科学省)に示されている「ICTを効果的に活用した学習場面の10の分類例」(図1)におけるICTを活用した学習活動を具体的に提案し、授業実践を通してそのポイントと効果を明らかにしました。例えば、図1の「C2:協働での意見整理」の場面において、班員が端末上で同時に活動する際は、考えやすいよう図2のように、Google Jamboardに比較図を導入することで、自分がどちら寄りの意見なのか表現したり、他の班員の意見と自分を比べたりすることが容易にできることです。また、同じ作業をホワイトボードでやろうとすると配布する時間等がかかりますが、1人1台端末だとすぐに活動に入り、時間を有効活用できます。

今後は、授業における1人1台端末の積極的な活用を進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。



図1 「ICTを効果的に活用した学習場面の10の分類例」

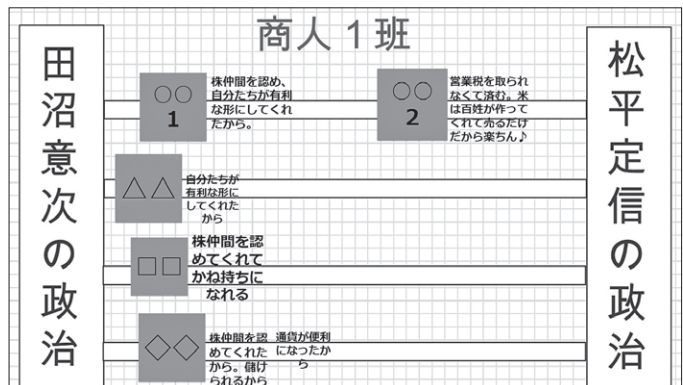


図2 「1人1台端末を活用した授業実践 (Google Jamboard)」

# センター事業より

## 外国語指導助手の指導力等向上研修会

(教育研修部)

JETプログラムに参加するすべてのALTと日本人外国語教員（JTE）を対象に、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等の習得を目的として、毎年11月に2日間の研修会を開催しています。今年度は3年ぶりに、ALT配置のすべての高等学校と市町の小中学校からJTEも参加し、2日間で合計157名が受講しました。

2年目から5年目の再任用ALTはワークショップを受け持ち、夏休み前からこの研修に向けて準備をして臨みました。ワークショップを運営することで、さらなる指導力の向上も図っています。

また、今年度はチーム・ティーチングに関する講義を両日とも校種別（高等学校向け、小中学校向け）に行い、ALTとJTEとの交流を図りながら、チーム・ティーチングの基礎や今日的な課題を学ぶ機会となりました。

日程	研修内容
11月16日(水)	開会式、ワークショップI・II・III 高校向け講義・小中学校向け講義
11月17日(木)	高校向け講義・小中学校向け講義 ワークショップIV・V・VI、閉会式



講義「How Language Assessment Works: Speaking」



ワークショップでのディスカッション

### 受講者の声

- ◎授業のアイデアが素晴らしかった。明日からすぐに自分の授業に取り入れたい。
- ◎ALTがこのために準備してきたことがよく分かった。多くの情報や知識を得ることができた。
- ◎異なる校種（小中高）の先生方と交流ができ、それぞれのどのような指導をしているかを学ぶことができた。
- ◎講義の時間とディスカッションの時間のバランスがよく、内容も興味深かった。
- ◎日常と異なる研修で有難かった。

## サイエンスカー訪問活動のまとめ

(科学情報部)

科学情報部 理科教育室では、科学技術教育普及活動の一環として「サイエンスカー訪問活動」を行っています。

今年度は、5月27日から12月16日まで、23校の小学校・特別支援学校を訪問し、1,112名の児童と活動しました。30の学習テーマのうち、22テーマを実施し、低学年では「空気遊び」や「しゃぼん玉遊び」、中学年では「風船ホバークラフト作り」や「熱気球作り」、高学年では「ぼんぼん蒸気船」が人気でした。

参加した児童からは「作るときにも、遊ぶときにも様々な楽しさやうれしさがあり、とてもよい勉強になりました」「この学習を通して、化石に興味をもったので、他の化石についても自主学習として調べたり、博物館に行って詳しく知ったりしたいなと思いました」など、たくさんの感想をいただきました。

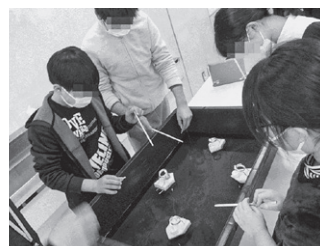
今後もサイエンスカー訪問活動を充実発展させ、たくさんの児童が科学に親しみや感動を味わえるよう、さらなる努力をしていきます。



しゃぼん玉遊び(低学年)



ホバークラフト体験(中学年)



ぼんぼん蒸気船(高学年)



月の満ち欠け(高学年)

# センター事業より

## 不登校児童生徒に対する支援推進事業 体験交流活動「おもしろ科学実験」

(教育相談部)

「不登校児童生徒に対する支援推進事業」(文部科学省補助)の一環として、小・中学生とその保護者を対象に、体験交流活動を実施しています。この活動では、自分を表現することや人と関わることの楽しさを味わう機会を設けることを目的としています。今年度の第2回目は、11月30日(水)に、科学情報部の協力を得て、当センターで「おもしろ科学実験」を行いました。

顕微鏡観察と撮影した微生物の写真でしおりを作る「ミクロの世界を見てみよう&しおり作り」、ろ紙に絵を描き、尿素有を吸い込ませて、結晶ができる様子を観察する「結晶ツリーを作ろう」、紙コップで竹とんぼのように飛ぶおもちゃを作る「飛べ!紙コップター」の3つの実験から、興味のある実験を参加者が2つ選んで取り組みました。活動中には、恐る恐る顕微鏡を覗き、微生物が見えるととび跳ねて喜ぶ姿や、自分の描いた模様が色とりどりの結晶となっていく様子を嬉しそうに見守る姿、紙コップターが飛んでいくと思わず声をあげる姿が見られました。

また、サイエンスショー「空気 de Show 2022」では、ビッグゴム風船送りや手作り空気砲的当て体験で参加者同士が声をかけ合い、交流も楽しみました。



どんな結晶に育つか?  
「結晶ツリーを作ろう」



遠くまで飛ぶといいな  
「飛べ!紙コップター」



ねらいを定めて!  
「手作り空気砲」

## 特別支援学級等新任担当教員研修会

(教育相談部)

本研修会は、特別支援学級又は通級指導教室を初めて担当する小学校・中学校・義務教育学校の教員を対象にした全5回の悉皆研修です。今年度の受講者は108名(昨年度比13名増)です。

研修では、特別支援教育の教育課程、障害のある児童生徒の就学、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用等の講義や協議、担当学級、障害種別ごとに分かれ、実際の授業の参観や学習環境の見学などをしました。

研修を終えて受講者からは、「理論的な学びができてよかった」「業務への姿勢を見つめ直すことができた」という意見があった一方、「児童生徒理解が難しい」、「障害種に応じた自立活動の指導内容を知りたい」といった声も聞かれました。

特別支援学級や通級による指導では、障害の理解や障害に応じた支援が大切です。教科書の提示の仕方、介助の仕方など細かいことも児童生徒が安心安全な学校生活を送るために必要です。初めて特別支援教育を担当する先生方、初めての障害種の対応を求められる先生方は「分からない」と思ったら、すぐ管理職の先生と相談し、早期から関係機関と連携するなどして対応されることをお勧めします。

### 総教セ Web ページからアクセスできる教育資料(抜粋)

- ・特別支援教育指導者用テキスト(R5.3改訂発行予定)
- ・子供のために先生が気づいて動けるチェックリスト
- ・特別支援教育学びQ&A
- ・YouTubeチャンネル(研修動画コンテンツ)など

### 学校教育に関する相談機関

#### ○特別支援学校のセンター的機能

- ・地域のセンター校(指導・支援の方法、校内研修への支援)

#### ・障害種別のセンター校

視覚障害: 富山視覚総合支援学校

聴覚障害: 富山聴覚総合支援学校

高岡聴覚総合支援学校

肢体不自由: 高志支援学校

富山総合支援学校

高岡市立こまどり支援学校

病弱・身体虚弱: ふるさと支援学校

#### ・就労支援のセンター校

県東部: 富山高等支援学校

県西部: 高岡高等支援学校

#### ○東部・西部教育事務所

- ・校内支援体制整備の助言等、やや困難なケース

#### ○専門家チーム

- ・解決しにくい重篤なケースに対応

#### ○総合教育センター

- ・本人、保護者の相談に対応

## 随想1

# 姿勢がよくなる魔法のフレーズ

学力向上アドバイザー 吉倉 哲夫

先日、「魔法のフレーズをとこなえるだけで姿勢がよくなるすごい本」(大橋しん著)について紹介している記事を見かけ、姿勢のよくない私は試してみました。何となくよい感じがしたので、皆さんにも紹介したいと思います。

そもそも、姿勢は固定すべきものではなく、常に動きの中にあるものなので、改まった態度で「よい姿勢をつくらう!」と努力するものではなく、日常生活の中で、ふんわりとラクにゆらぎ続けていることがとても大切なのだそうです。

それでは、体の力を抜きリラックスして、以下のフレーズを唱えてみましょう。(実際に、声に出してという必要はないそうです。)

### 猫背の解消

- ① 頭の中で小舟が静かに揺れています。  
(頭痛、目の疲れ、表情筋の緊張、あごの緊張、飲み込み力の低下、鼻づまり)
- ② 背骨が鎖のようにゆれています。  
(肩こり、腰痛、疲れやすさ、冷え・むくみ、坐骨神経痛、静脈血栓症)

### 肩こりの解消

- ① 春、アルプスの雪がとけるように、両肩がゆっくり離れていきます。  
(肩こり、首こり、頭痛、息切れ、不眠、自律神経失調症、更年期障害)
- ② 目玉はいつも水の中で漂っています。  
(目の疲れ、ドライアイ、目の充血、緊張性頭痛、目尻や眉間のシワ)
- ③ 歯茎に血液が通い、舌はおもちのようにふっくらしています。  
(顎関節症、ドライマウス、虫歯、口臭)

### 腰痛の解消

- ① 骨盤はワイングラスの底。いつも静かにゆれています。  
(腰痛、便秘、お腹の冷え、股関節痛、尿もれ)
- ② 体の中を落ちる滝を、鯉が下から上へエネルギーに登っていきます。  
(肩こり、腰痛、便秘、疲労、骨粗しょう症)
- ③ 足に沿って、砂時計の砂がまっすぐ落ちていきます。  
(ひざ痛、股関節痛、腰痛、外反母趾、胃の痛み、尿もれ)



ちょっとした時間の合間に、心と体をリラックスさせて試してみてください。

## 随想2

# 「夜さり」という言葉から

教育相談部長 北田 邦弘

先日、小説を読んでいたら、「夜さり」という言葉が出てきた。「ん?」と思って、スマホで意味を調べてみたら、

《「さり」は来る、近づくの意を表す動詞「去る」の連用形から》

1 夜になるころ。夜。ようさり。

「私などは一店を了(しま)いますと」〈鏡花・草迷宮〉(以下略 goo辞書より)

とあった。なぜ、「ん?」と思ったかという、私の祖母が、この「夜さり」という言葉を使っていたことを思い出したからである。てっきり、富山県の砺波地方の方言だと思っていたのが、違っていた。

このほかにも、自分が方言だと思っていた言葉が、実は現代ではあまり使われなくなってきた言葉だったというものがある。

たとえば、「はじし」。これは、私の父も使っていた。「歯ぐき」のことである。方言だと思っていたが、「肉」の訓読みは「しし」なので、「歯肉」で「はじし」。そのままである。これは、福井や大分でも使うらしい。

何かの本で、中央で使われていた言葉が次第に地方

に広がっていき、時がたって中央では使われなくなったが、地方では方言として残っているものがあると読んだことがある。「夜さり」や「はじし」は、富山県の南西部に残っていたのであろうか。

ちょっと前に、富山県の方言について調べる機会があり、言葉を集めようと、父や母が普段使っている言葉を、気を付けて聞いていたときがある。方言に注目して父母の話の聞いていると、楽しかったし、心地よさを感じた。私も普段は砺波地方の方言を話しているが、父と母の間で交わされる会話には、私は使わない言葉や言い方がふんだんに入っている。しかし、その意味やニュアンスはよくわかる。言葉が、体にしみ込んでくる感じがする。心地よさはそこからくるのかもしれない。そして、その感じは、好きな音楽を聴いているのと似ているとも思った。もしかしたら、自分もそんなふうになりたいと思っているのだろうか。

私の周りでは、次第に方言が減ってきているような気がする。

「夜さり」という言葉から、祖母や父とのことをいろいろ思い出した。

# 連載 知って得 04



## 暦と私たちの暮らし

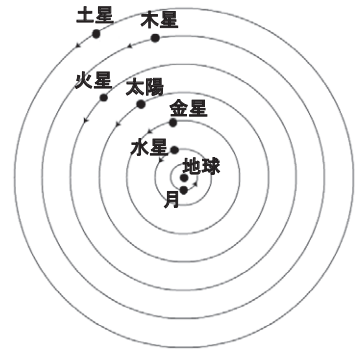
科学情報部 主任研究主事 堀井 良徳

暦は、人類が季節による気候の変動に対して、食物を計画的に生産し収穫・貯蔵する知恵として、生活する上での必要性から生まれたものです。日本に暦をもたらした弘法大師・空海が中国から持ち帰った「宿曜経」には七曜（一週七日の各曜日）のことが記されています。

七曜は、太陽と月と肉眼で見ることのできる5つの惑星（水星、金星、火星、木星、土星）に由来しています。では、七曜が地球から近い並び順でないのはなぜでしょうか。暦が作られた時代の人々は、地球を中心に月、水星、金星、太陽、火星、木星、土星が回っていると考えていました。また、月が新月から上弦、上弦から満月、満月から下弦、下弦から新月へと変わる間隔がそれぞれ約7日間だということも知っていました。このため人々は、この7日間をそれぞれ7つの星の神が支配していると考えました。これが「1週間」という考え方の基です。

七曜の順がどのように決められたかは、次のように説明できます。1日目は、地球から最も遠いところを回る土星の神が支配する「土星の日」で、1時間ごとに、土星、木星、火星、太陽、金星、水星、月・・・と地球から遠い順に代わっていきます。24時まで続けると、2日目は太陽から始まり、太陽の神が全体を支配する「太陽の日」になります。その後も同じように1時間で代わっていくと、毎日の最初にくる惑星は「土日月火水木金」の順になります。1世紀ごろに作られたローマ皇帝ティトゥスの浴場跡で見つかった暦は、実際に土曜日からは始まっているようです。どの曜日を週のはじめとみるかは、時代や地域によって違うようですが、このような考え方で1週間のそれぞれの曜日である七曜の順が決められました。

私たちの暮らしに欠かせない暦は、長い年月をかけ様々な変遷を繰り返してきました。暦には、まだまだたくさんの不思議や秘密があります。みなさんも調べてみてはいかがでしょうか。



天動説に基づいた天体の並び

時間	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
1	土	日	月	火	水	木	金
2	木	金	土	日	月	火	水
3	火	水	木	金	土	日	月
4	日	月	火	水	木	金	土
5	金	土	日	月	火	水	木
6	水	木	金	土	日	月	火
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
24	火	水	木	金	土	日	月

## 教育相談 連載

## 痛みにこたえる

教育相談部 客員研究主事 舘野 智子

テニスボールを使って筋膜リリースを始めました。左肩甲骨の外側を圧迫すると、痛い、痛い。その分、即効性があるのか、左腕の動きがよくなり、右の肩こりにも効いている感じがします。痛みというと、「うちの子がいじめられて学校へ行けなくなっているのに、先生方が納得のいく対応をしてくれない」という父母からの相談が数多く寄せられます。学校へ行けない子どもの痛みに加え、対応してもらえない父母の痛みが切々と語られます。

「いじめ」という言葉を聞かされた先生方は、ドキッとするでしょう。「事実確認が難しく、相手の親に話すことにも躊躇する」かもしれませんが、子どもや親がそうとらえているとしたら、「いじめられている」のは事実でしょうし、もし仮に、「やっていない」と相手の子が言ったとしたら、それも事実だと考えます。それぞれが感じたことを受け止め、どう折り合いをつけていくのか。間にいる先生方には、丁寧で誠意のある対応が求められています。



自分にとって痛みを伴う体験をすると、わたしたちは「また同じようなことが起きるのではないかと警戒します。その場に行きたくなかったり、その場に居合わせた人と会いたくなくなったりするのは当たり前前の反応です。

中学校で先生や子どもから嫌なことを言われたことがトラウマとなって、高校に進学してから、周りの人たちにどれだけ温かくしてもらっても、「また冷たくされるのではないかと感じてしまうお子さんもいます。学校へ行きたくても、行けない状態です。安心できる場所や安全だと思える環境があっても、過去の体験が足かせとなってところとからだの反応してしまうのです。

子どもたちの痛みは、子どもたち自身が一番感じています。その子の言葉が事実かどうかより、痛みとらえている子どもの言葉に真摯に耳を傾け、気持ちを想像することでしか、痛みにこたえるための方策は浮かんでこないと思います。